



## オーストラリアの利下げと豪ドル・円の動向について

### オーストラリアの金融政策

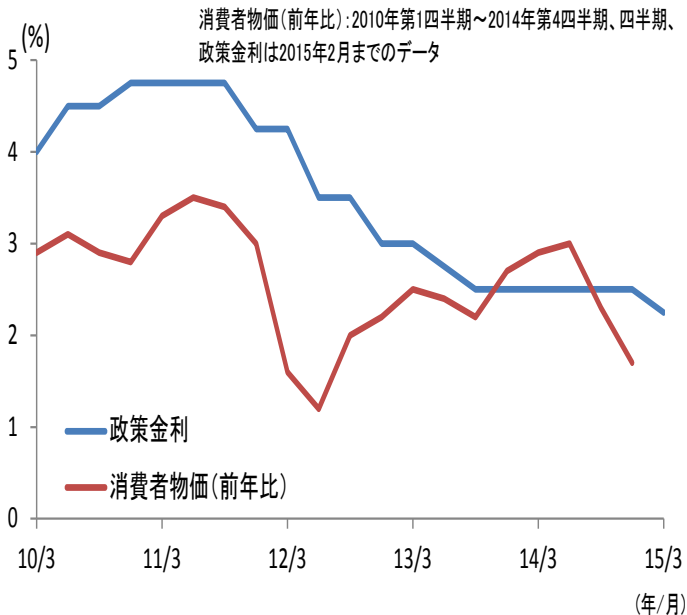
オーストラリア準備銀行(RBA:中央銀行)は2月3日の金融政策決定会合において、政策金利であるオフィシャル・キャッシュレートを、現行の年率2.5%から2.25%に利下げすることを決定しました。事前の市場予想は2.5%の据置きでした。

原油安等で世界的にデフレ懸念が波及している中、米国以外の世界の金融当局は、金融緩和策を進める姿勢を明確にしつつあります。同じ資源国であるカナダも1月に利下げに踏み切りました。

オーストラリアにおいても、消費者物価指数(CPI)上昇率が、2014年第3四半期の(前年比)2.3%から第4四半期には(同)1.7%に低下するなど、物価は下落基調にあります(図表1)。

デフレ懸念の波及や国内景気の鈍化に対する予防的な措置として、RBAは、今回利下げに踏み切ったと思われれます。

【図表1】 オーストラリア政策金利と消費者物価の推移



### 今後の豪ドル円の見通し

足許の豪ドルは、昨年10月末から今年1月末までの騰落率が、対ドルで11.8%の下落、対円で7.7%の下落となりました。

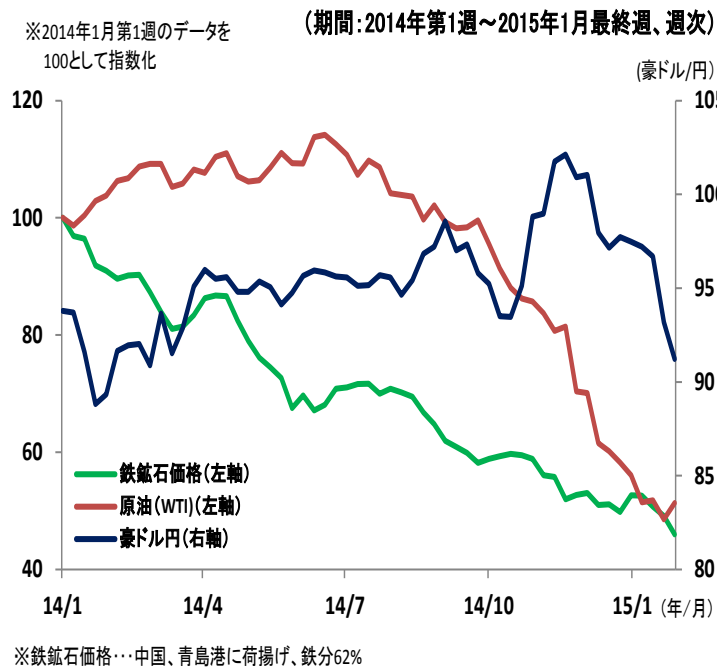
出口戦略に向かう米国と金融緩和策を続けるオーストラリアとの金融政策の違いや原油、商品価格下落の影響等が豪ドル安の主因と考えられます。

今後の豪ドルに関しては、

- 1) 日本とオーストラリアの金融政策は同じ方向性(金融緩和)であること
- 2) 鉄鉱石などの資源価格は、原油価格の下落に先行して下がっており、価格水準等から需要増が見込めること(図表2)
- 3) これまでの豪ドル安から交易条件は改善してきていること
- 4) オーストラリアの金利は依然として相対的に高く、オーストラリアへの資金流入は今後も続くと思込めること

等から、豪ドル・円は、目先調整する可能性はあるものの、年内には底を打ち、緩やかな上昇が見込まれます。

【図表2】 豪ドル・円と商品価格の推移



出所:図表1~2は、ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメントが作成